

飲料用紙容器（紙パック）リサイクルの 現状と動向に関する基本調査

- 2005年度 リサイクルの実態 -

2007年1月

回収量が9万トンを超えました

産業損紙・古紙を含む回収量が9万トンを超えました。回収率も、2004年度の35.5%から36.2%に、使用済み紙パックの回収率も24.9%から25.8%に上昇しました。

回収した紙パックは有償で引き取られています

市町村回収や集団回収によって集められた紙パック古紙は、古紙回収業者や古紙回収問屋、製紙メーカーに有償もしくは無償で引き取られています。

1リットルの牛乳以外の紙パックも回収できます

500mlの牛乳の紙パックや、1リットル・500mlの清涼飲料の紙パックは、あまり回収されていないことがわかりました。これらの紙パックを回収していくことが今後の課題のひとつです。



紙パックとは、「アルミニウムを使用していない飲料用紙製容器」です。

回収量が9万トンを超えました

全国牛乳容器環境協議会は、1995年から紙パックのリサイクルの実態についての調査を開始し、その結果を公表してきました。調査開始以来、リサイクル活動は着実に社会に浸透してきました。

2005年度も引き続き回収量が増加し、回収率が増加しました。

2005年度

(1) 紙パック回収率（産業損紙・古紙を含む）

36.2 %（2004年度 35.5 %）

= 製紙メーカー国内受入量 / 紙パック原紙使用量

= 91.3千トン / 252.4千トン

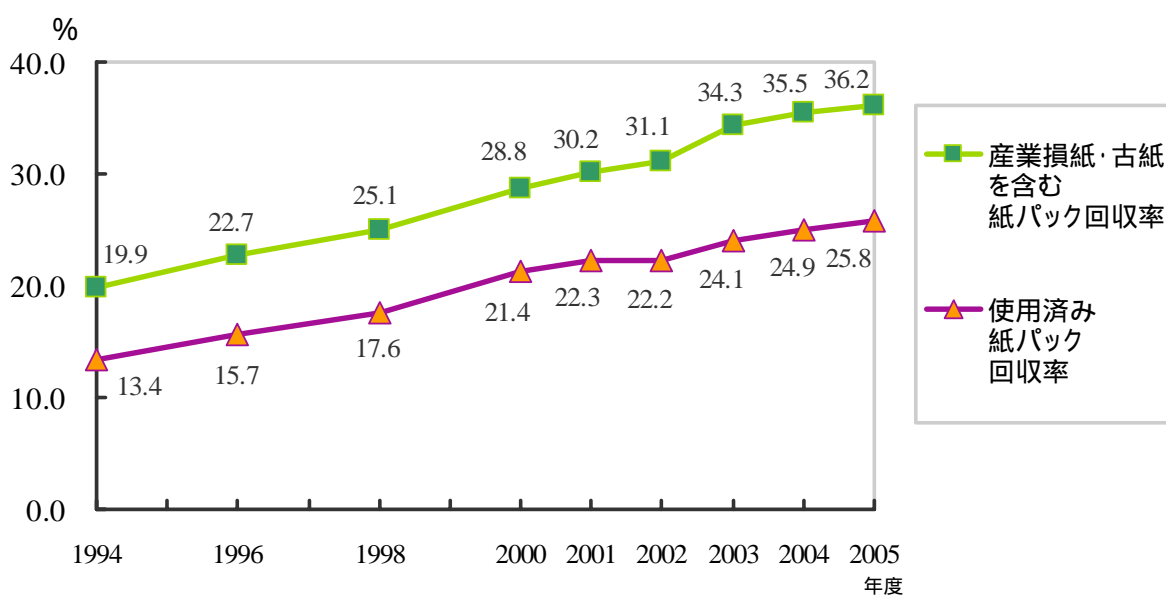
(2) 使用済み紙パック回収率（使用された紙パック）

25.8 %（2004年度 24.9 %）

= 使用済み紙パック回収量 / 紙パック出荷量

= 55.7千トン / 215.9千トン

紙パック回収率の推移



注) 1995、1997、1999年度は本調査を実施していないため、回収率をプロットしていない。

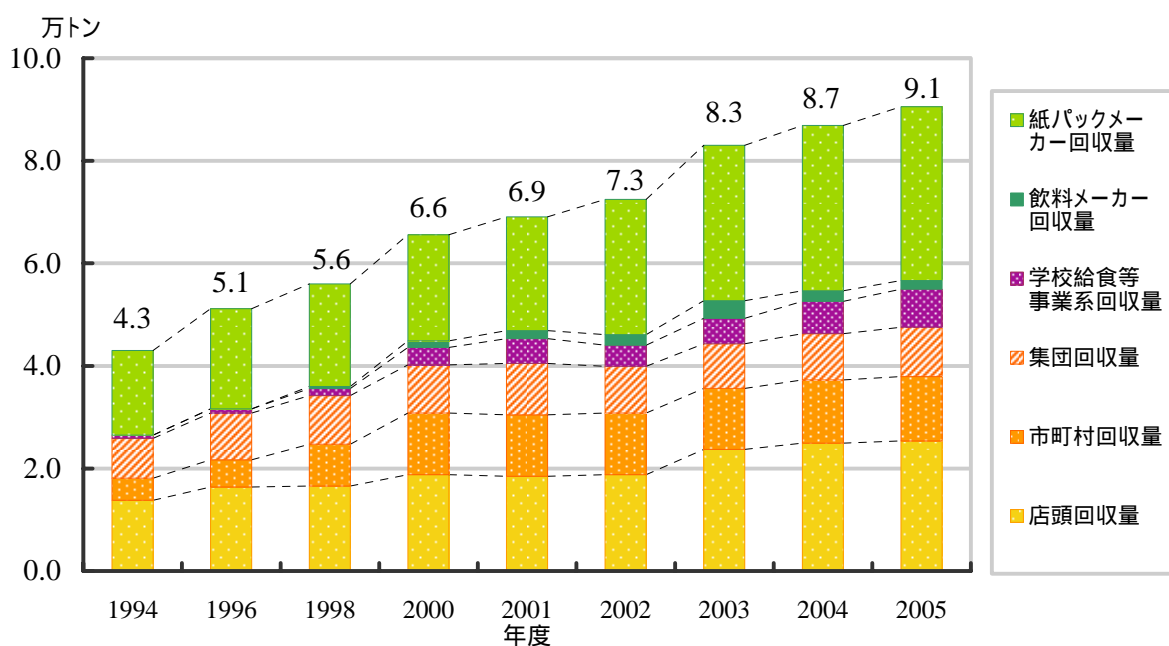
回収量全体は、9.1万トンになり4.3%の増加 店頭回収や市町村回収、集団回収も増加

紙パックの産業損紙・古紙（使用前のもの）と使用済み紙パック（家庭や学校で飲まれた後のもの）の2つの回収量を合計した回収量全体は、9万1千トンになりました。2004年度から4千トン近く増加し、4.3%伸びました。

紙パックメーカーと飲料メーカーからの産業損紙と古紙の回収量合計は、3万6千トンであり、2004年度から1.3千トン増加し、3.8%伸びました。店頭回収や市町村回収、集団回収、学校給食など）の回収量合計は、5万6千トンであり、2004年度から2.5千トン増加し、4.7%伸びました。使用済み紙パックの中では、集団回収が増加しました。

一方で回収率は、全体で36.2%で、0.7ポイント増加しました。また使用済み紙パックの回収率は25.8%で、0.9ポイント増加しました。回収量では、紙パック回収率は、紙パック原紙使用量と、飲料メーカーからの紙パック出荷量の増加量が大きかったため、回収量の伸びほどには大きくありません。

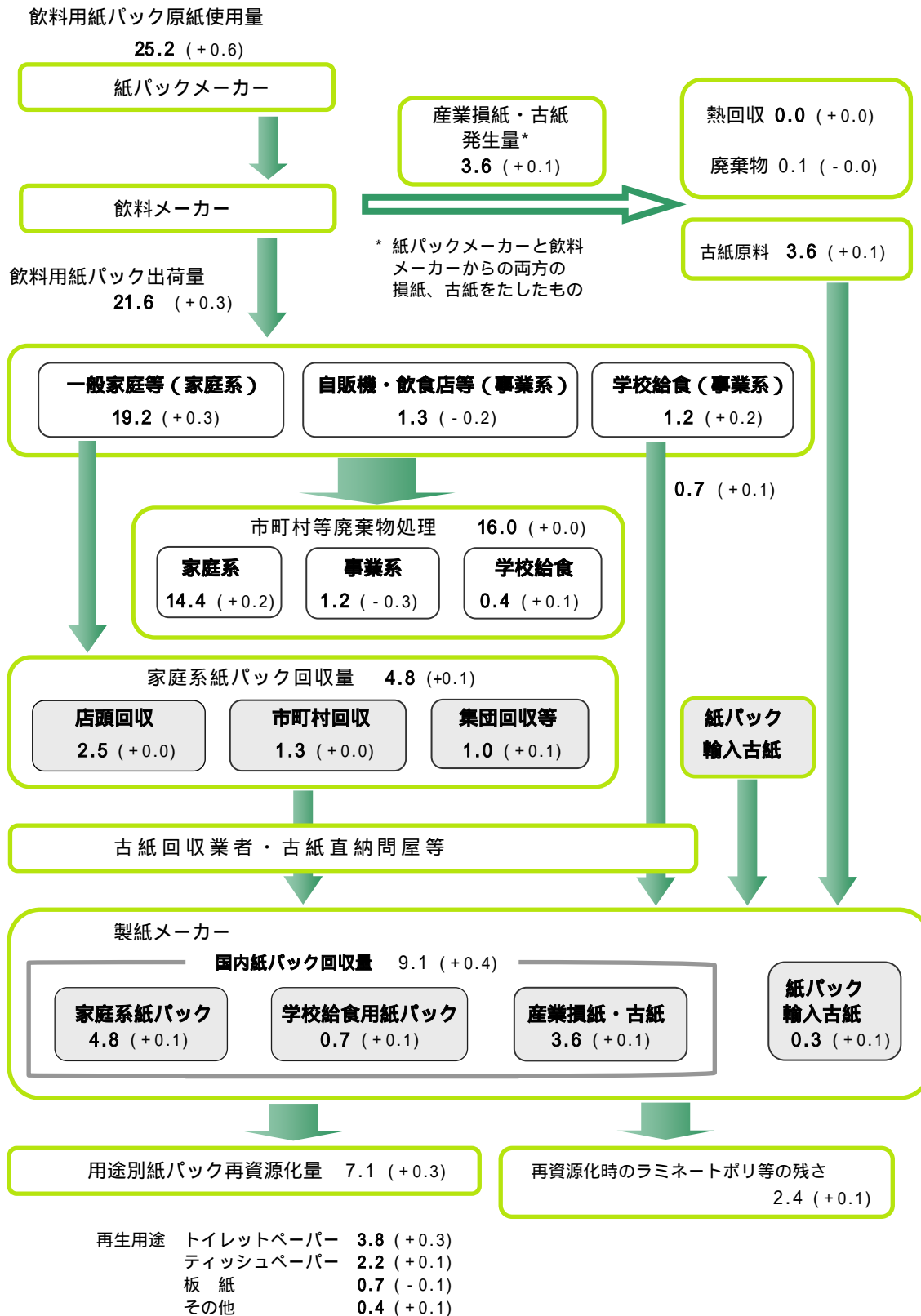
紙パック回収量の推移



注) 1995、1997、1999年度は本調査を実施していないため、グラフから除いている。

2005年度 紙パックマテリアル・フロー(推計値)

単位：万トン



* ()内は2004年度推計値との差
* ()四捨五入しているため、合計と一致しない箇所がある

回収した紙パックは有価で引き取られています

紙パック古紙は、紙の繊維が長いなど質の優れた古紙といえます。このため、他の古紙よりも比較的高価で取引がされています。今年度のアンケート調査結果でも市町村回収や集団回収された紙パック古紙のほとんどは、有価物として扱われています。

市町村回収では、アンケート調査で紙パック古紙単独の取引価格を設定していると回答があった全市町村の平均取引価格は 5.8 円/kg であり、この価格は昨年度と全く同じです。また、全体の 99% が有価もしくは無償（ゼロ円）で取引されています。市町村回収の主要な取引先・引き渡し方法別の価格推移を見ると、最も数が多かった保管後に古紙回収業者へ引き渡しをするときの価格は 5.7 円/kg であり、昨年度よりもやや上がっています。集団回収では、紙パック単独の取引価格は最も多い引き渡しで 3.9 円/kg であり、昨年度と変わっていません。

紙パックの取引価格は、大きな変動がなく推移しているといえるでしょう。

紙パック古紙単独価格の取引先・方式別の取引価格(平均価格)の推移

		(円/kg)			
取引先	取引条件	2003年度	2004年度	2005年度	
市町村回収	古紙回収業者	引渡	5.5	5.4	5.7
		市町村数	102	107	148
	古紙直納問屋	持込	5.2	5.4	5.8
		市町村数	45	53	66
	製紙メーカー	引渡	6.4	8.3	6.1
			市町村数	42	39
持込		6.4	5.8	5.8	
		市町村数	29	52	62
集団回収	(取引先不問)	引渡	8.1	6.6	6.0
		市町村数	13	16	16
	持込	7.2	7.7	7.9	
		市町村数	5	21	27
集団回収	(取引先不問)	引渡	3.7	3.9	3.9
		市町村数	144	153	160
	持込	3.8	4.6	4.4	
		市町村数	47	53	60

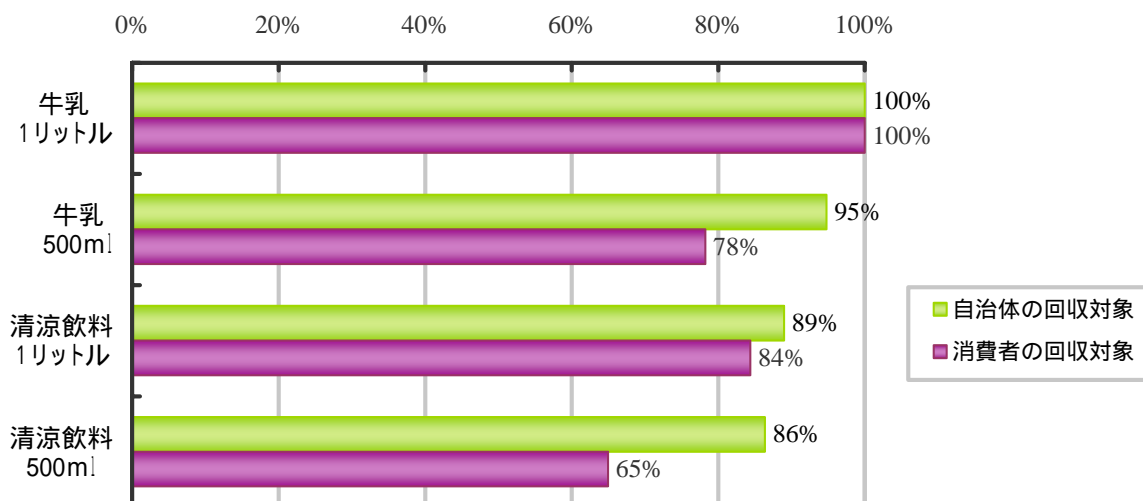
1 リットルの牛乳以外の紙パックも回収できます

今年度の調査では、紙パックのサイズを1リットルと500mlに、中身飲料を牛乳と、ジュースやコーヒー、緑茶類などの清涼飲料にわけて、それぞれに、自治体の回収対象になっているかどうか、また、消費者アンケートを通してリサイクル率がどのくらい異なるのかをみてみました。

調査結果から、牛乳を回収対象にしても清涼飲料は回収対象にしていない、1リットルを対象にしても500mlは対象にしていない自治体が少なくないことがわかりました。一方、消費者調査からは、同様に、1リットルをリサイクルしていても500mlはしていない、牛乳をリサイクルしていても清涼飲料はしていない消費者が多いことがわかりました。

500mlの紙パックは、1リットルと素材面も含めて異なるところはサイズだけです。500mlの紙パック3つで1リットルの紙パック2つ分をリサイクルしたことになります。また、清涼飲料の紙パックも牛乳パックと何ら変わるところはありません。どの紙パックも同じようにリサイクルしていくことが、紙パックのリサイクルをさらに拡大することに繋がります。

サイズ・中身飲料別にみた回収対象



(牛乳1リットルを100%にしたときの他の容器の回収対象率)

自治体の回収対象は、全国の自治体アンケート調査から求めたものです。例えば、牛乳500mlは、紙パックを回収していても回収対象にしていない自治体が5%あります。

また、消費者の回収対象は、インターネットによる首都圏の消費者アンケート調査から求めたものです。1リットルの紙パックをリサイクルしている家庭でも、牛乳500mlになると22%の家庭ではリサイクル対象から外れてしまいます。

もっと大きく広げよう 学校給食用紙パックのリサイクル

学校給食用の紙パックは、60%以上がリサイクルされています。しかし、児童生徒が自ら「洗って・聞いて・乾かして」リサイクルしているのは、まだ30%です。紙パックを通して、子どもたちに資源の大切さや環境のことをもっと知ったり、考えて欲しい。そんな願いから、全国牛乳容器環境協議会では、子ども向けのホームページ「地球となかよし、見つけた『牛乳パッケン探検隊』」を作成しています。

<http://packun.jp/>

紙パックの原料となる森林資源の管理から、飲料の充填、飲料後の紙パックのリサイクルまでをやさしく解説しています。

紙パックが使われている飲料

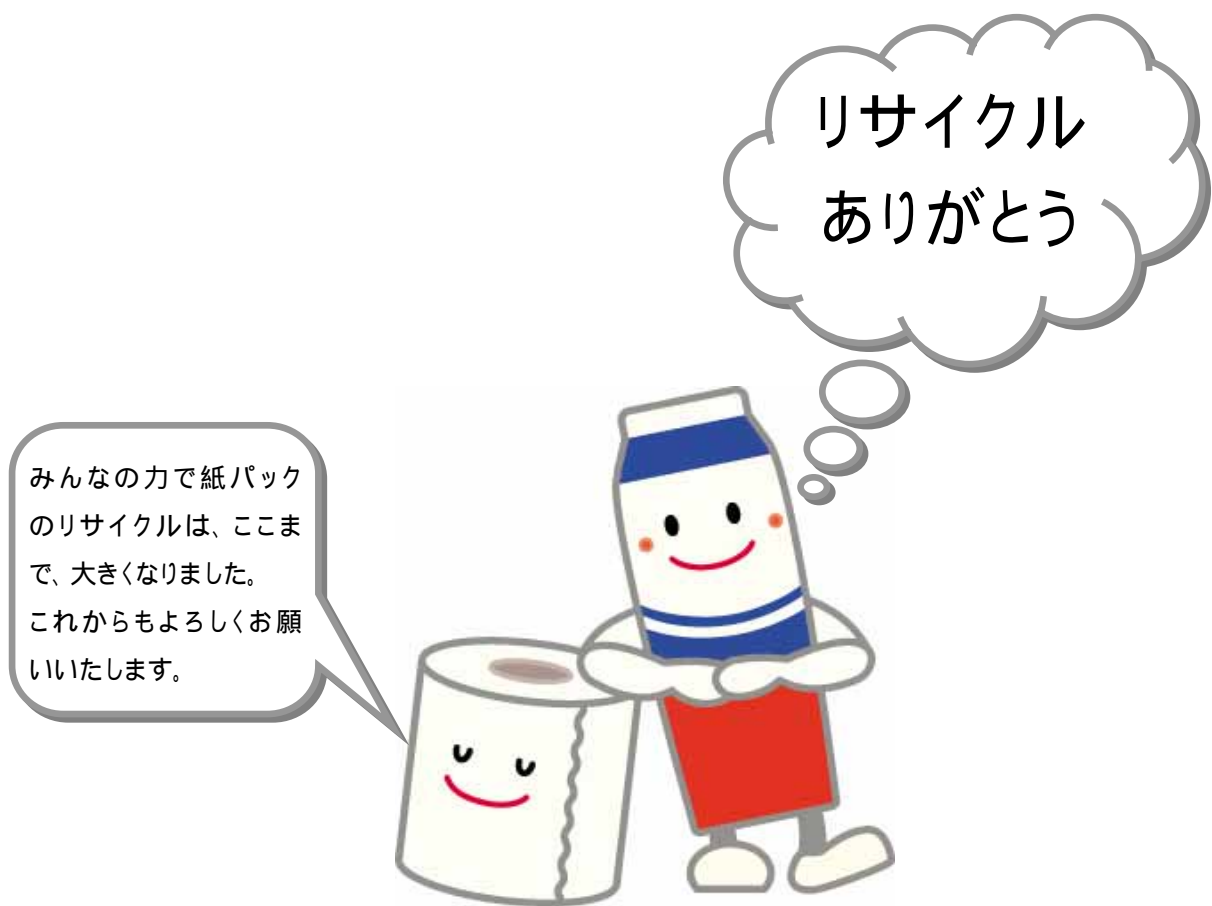
紙パックメーカーから飲料メーカーへの飲料用紙パック販売量は、少しずつ増加しています。2005年度では、大型容器（500ml以上）が全体の88%を占めていますが、小型容器（500ml未満）の伸び率が大きくなっています。

また、飲料用紙パックは、「牛乳パック」とも呼ばれるように、牛乳用が約7割を占めていますが、最近では清涼飲料と果汁飲料への利用が増加しています。

紙パック販売量の推移

(単位:トン)

		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度 対前年度比	
飲料用紙パック販売量		207,453	206,048	211,302	217,782	218,538	0.30%
容量	大型容器(500ml以上)	182,709	182,019	186,848	192,510	192,059	-0.20%
	小型容器(500ml未満)	24,744	24,029	24,454	25,272	26,479	4.80%
内容物	飲用牛乳	149,751	148,995	146,008	151,292	151,155	-0.10%
	醗酵乳等	5,863	7,390	11,660	7,372	7,269	-1.40%
	果汁飲料	24,008	22,352	22,028	24,592	25,772	4.80%
	清涼飲料	19,501	17,961	22,569	26,714	27,308	2.20%
	アルコール飲料	8,330	9,350	9,037	7,811	7,034	-9.90%



飲料用紙容器（紙パック）リサイクルの
現状と動向に関する基本調査

2005 年度 リサイクルの実態

発行日 2007 年 1 月

発 行 全国牛乳容器環境協議会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-14-19 乳業会館

TEL 03-3264-3903 FAX 03-3261-9176

URL: <http://www.yokankyo.jp/>

本誌は、エコマーク認定の印刷用紙を使用しています。
古紙パルプ配合率は 100%、白色度は約 70%となっています。